

中学生を対象とした絆づくりプログラムの実践と評価

Practice and Evaluation of Program of Bonds Development for Junior High School Students

有沢孝治

Koji ARISAWA

東海大学

TOKAI University

Key words : 人間関係づくり、中学生、ソフトユニット

問題と目的

中学生の5人に1人が友だちや仲間のことで悩んでいる(内閣府政策統括官 2007)。中学生における同世代の仲間との関係は、学業や部活動等の学校での活動にも影響を及ぼし、その後の自己形成に影響を与えると考える。この意味で中学生の絆づくり(人と人との結びつき、支え合い、助け合いの人間関係形成)に注目することは意義のあることと考える。本研究では中学生の絆づくりの基盤となる人間関係に関する学びと気づきを主な目的とした活動プログラム(以下、絆づくりPとする)を設計・実践し、その評価から成果を考察する。なお、絆づくりPの理論的背景はソフトユニット(山本1978)である。

方法

201X年にA中学校の2年生(男子79名、女子28名、計107名)を対象に絆づくりPを設計、実践した。時間は90分で、授業に準ずる活動である。体験後に参加生徒にアンケートを実施し、内容の「理解度」と学校生活を送る上で「ためになったと思った程度」を5段階評価で尋ね、その後「ためになったと思った」具体的な内容、そのことがどんな場面で生かせるか、体験で得た気づきなどの記述を求めた。

絆づくりPでは上述の主な目的に沿って、次の3つの下位目的を設定した。①相手をイメージや思い込みで判断してしまうことがあることを理解する。②対人コミュニケーションにおける非言語表現の重要性を理解する。③物事に対する自分と相手の受け止め方の違いを認め理解する。

この3つの下位目的を達成するために次の4つの視点から絆づくりPを展開した。①自他尊重の対話、②印象形成、③非言語表現(本プログラムではプロクセミックスを中心とした)、④自他認知の違い、以上である。

結果

アンケート結果から参加生徒の理解度をみると、「よく理解できた」(全体26.2%:男子20.3%、女子57.1%)と「ある程度理解できた」(全体66.4%:男子69.6%、女子42.9%)を合わせると全体で92.6%であった。また、絆づくりPのためになった程度では「とてもためになると思った」(全体52.3%:男子44.3%、女子75.0%)と「ある

程度ためになると思った」(全体26.2%:男子27.8%、女子21.4%)を合わせると全体で78.5%であった。

次に「理解の程度」と「ためになった程度」の性差について検証した。「理解の程度」と「ためになった程度」の平均点を男女別に算出し、等分散性の検定を行ったところ、いずれも等分散が仮定されなかったため(理解の程度: $F=2.32$, $p<.02$, ためになった程度: $F=2.61$, $p<.01$)、対応のないt検定のWelchの方法を用いて分析した。その結果、理解の程度($t=3.14$, $p<.01$, $d=.56$)と、ためになった程度($t=4.01$, $p<.01$, $d=.71$)の両方で、男子よりも女子の方が有意に得点が高かった。また、効果量はいずれも中程度であった。

自由記述では、人間関係の形成における対人的距離の重要性、自他認知の違いの理解、自他尊重の大切さ、第一印象だけで相手を判断することの危うさなどの学びや、お互いに安心できる中で学校生活を楽しまたいという願いなどが述べられていた。

考察

上記の結果より、絆づくりPの「理解度」と「ためになった程度」には性差がみられたものの、全体的には参加生徒から肯定的に評価されていた。また自由記述の内容から、人間関係調整能力の向上、思いやりの育成、いじめの防止に寄与することが推測できる。実際の学校生活で人間関係に肯定的な変化があったかは検証が必要であるが、気づきの獲得を目的としたプログラムでは参加者に納得感や満足感があれば教育効果があるとみてよいのではないかと(後藤2012)という指摘もある。この考えに立てば絆づくりPは教育効果のある活動であったといえよう。また肯定的な評価の背景には、参加生徒のニーズを聴取したこと、ソフトユニットの活動原理の一部を導入したこと(体験の重視、自分自身への取り組み、ステップとしての現実目標など)があると考えている。

参考文献

- ・内閣府政策統括官(共生社会政策担当) 2007 「低年齢少年の生活と意識に関する調査」 <http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei2/zenbun/>
- ・山本銀次『自己開発とソフトユニット』東海大学出版会 1978 pp.97-124
- ・後藤学「社会的スキルと人間関係」大塚都夫編『幸福を目指す対人社会心理学—対人コミュニケーションと対人関係の科学—』ナカニシヤ出版 2012 pp.213-243